

校報かめのこ

福生六小ホームページ <http://fussa-6e.hs.fussa.school>

か	考える子
め	めげない子
の	伸びる子
こ	心豊かな子



チームをつくる

福生市立福生第六小学校

統括校長 榎並 隆博

6月に夏の大会が終わり中学3年生は引退した。2年生のAは、新チームのキャプテンとなり、人一倍努力した。秋の新人戦は創部以来初の地区大会優勝、都大会ベスト16となった。レギュラーの最長身者が176センチ、平均身長172センチとバスケットボールチームとしてはかなりの「ちびっ子チーム」であるが、上々の成績だった。そこでAキャプテンは、次の大会に向け、これまで以上に気合いを入れ、チームの力を高めるべくキャプテンとしてのリーダーシップを発揮した。練習中は誰よりも声を出し、誰よりも速く、多く走り、チームメイトに檄をとばした。どうも集中が足りないと思われる者を見つけたときには、たとえ相手が同級生でも怒鳴りつけていた。

春の大会は、新人戦の地区大会で優勝を争ったチームに決勝戦で負けた。そこで、その後の春休みに行われた合宿で見たAキャプテンの気合いは相当なものとなった。何としても中学校最後となる夏の大会は結果を残したい。そのため、この合宿にかける思いは強かった。ところが、Aキャプテンの思いが強ければ強いほど、チームメイトの気持ちはAキャプテンから離れていった。「ついていけない」「やっつけられない」、ある日その思いが爆発した。

合宿は学校の施設をいくつかのクラブで共有して行われていた。その日はバスケットボール部が風呂掃除の当番を割り当てられていたのだが、チーム内で決めていた数名の部員が当番に行くのを忘れてしまった。ミーティング中にAキャプテンが呼び出された。みんなで使っている施設を大切に使用するために割り当てた当番を忘れるとは、チームとしてなっていないとの厳しい指導を受ける。

キャプテンが呼び出され、その場になくなったミーティングで、みんなの不満が爆発した。「ついていけない」「やっつけられない」という意見に反論し、キャプテンを擁護するチームメイトは一人もいなかった。

チームでは、2歳年上の先輩Bがコーチをしていた。このミーティングにも参加していたBコーチは、みんなの思いを受け止めながらも、Aキャプテンへの理解を促した。

この日の夜遅く、AキャプテンはBコーチの部屋に呼び出され、ミーティングでの出来事を聞かされた。自分としてはチームを強くしたいとの一心で努力してきたことが、誰にも理解してもらえていなかったことに大きなショックを受けた。同時にチームをつくること、チームの力を高めることの難しさを実感した。そして、自分以外の人の思いを受け入れることの重要性について、ほんの少し気付くことができた。

翌日、Aキャプテンはチームメイトにこれまでのことを謝罪した。チームメイトも前夜の、誰かが当番をしなかったときに、チームの代表として呼び出されたキャプテンという立場に思いを寄せ、この謝罪を受け入れた。

この出来事は、Aキャプテンのその後に様々な場面で影響している。今、Aキャプテンはとある小学校で、キャプテンを務めている。